

筑豊に関する10の質問

1. 長崎街道「筑前六宿」の6つの宿場町を挙げて下さい。
2. 遠賀川の流長は
 1. 100 km
 2. 60 km
 3. 40 km
3. 標高の高い順に番号を入れて下さい。
英彦山 福智山 三郡山 馬見山
4. 「筑豊の石炭御三家」は貝島太助、麻生太吉ともう一人は
5. 筑豊で最後に閉山した炭鉱は
6. 筑豊で初めて鉄道が開通したのは
 1. 明治24年
 2. 明治26年
 3. 明治30年
7. 筑豊で最初に開設された銀行は
8. 筑豊で最初に市制を施行したのは
 1. 直方市
 2. 飯塚市
 3. 田川市
9. 筑豊で初の夏の甲子園大会に出場した高校は
10. 現在の筑豊の人口はおよそ
 1. 60万人
 2. 50万人
 3. 40万人

(別表1)

市町村の移り変わり(行政区)

明治 22. 4. 市制・町村制施行				市制・町村制施行前の旧町村			
昭和30.4.5猪位金村大谷地区(田川郡)の一部編入							
昭和29.4.1 山田市	大正14.5.10 山田町	大正13.9.1 熊田町	熊田村	上山田	下山田	熊ヶ畑	嘉 麻 穂 郡
昭和30.1.1 嘉穂町	千手村			芥田	才田	九郎原 大力 泉河内 東畑 千手	
	足白村			椎木	屏	馬見	
	宮野村			桑野	小野谷	上 宮吉	
	明治25.1.18 明治42.3	大隈村		大隈	貞月	牛隈 大隈町 中益	
昭和16.4.17 碓井町	碓井村			上西郷	光代	嘉 麻 穂 郡 明 治 2 9 ・ 4 ・ 1 嘉 麻 ・ 穂 波 郡 合 併	
昭和16.4.17 稲築町	稲築村			西郷	平山 飯田 上臼井 下臼井		
昭和33.11.1 庄内町	庄内村			山野	口春 鴨生 平 才田 岩崎 漆生		
昭和34.1.1 顚田町	顚田村			元吉	大門 有井 仁保 有安 多田 綱分 山倉 入水 赤坂 筒野 高倉		
昭和38.4.11 飯塚市	昭和 7.1.20 飯塚市	明治 42.6.1	笠松村	上三緒	下三緒		
	昭和30.3.31 編入合併	飯塚町	飯塚町	飯塚	徳前		菰田
	昭和7.9.1	二瀬町			片島		伊川 伊岐須 相田 横田 川津
	幸袋町	大正7.1.1	大谷村	庄司	中 津島 柳橋 吉北 幸袋 目尾		
	鎮西村			蓮台寺	建花寺 明星寺 潤野 花瀬 八木山 大日寺		
昭和16.4.17 桂川町	桂川村			瀬戸	中屋 豆田 九郎原 土居 吉隈 土師 内山田 寿命		穂 波 郡
昭和32.11.3 穂波町	穂波村			忠隈	秋松 南尾 平恒 楽市 太郎丸 椋本 安恒 椿 弁分 小正 堀池 若菜 枝国		
昭和30.3.31 筑穂町	大分村			高田	舍利蔵 津原 久保白		
	上穂波村			大分	内住		
	内野村			山口	元吉 馬敷 阿恵 長尾 平塚 北古賀		
昭和23.1.1 夜須村桑曲(朝倉郡)				内野	弥山		

(別表2)

明治 22. 4. 1 市制・町村制施行			市制・町村制施行前の旧町村	
昭和6.1.1 直方市	大正15.11.1 直方町	直方町	直方 山部	鞍
		新入村	上新入 下新入 知古	
		福地村	上境 永満寺 畑 中泉	
		下境村	下境	
		頓野村	上頓野 頓野 感田	
昭和30.3.1 ←	明治33.3.14 植木町	植木村	植木	
大正15.4.1 宮田町	← 昭和2.4.1 ← 昭和30.3.31	宮田村	宮田 磯光 上大隈 長井鶴	
		香井田村	鶴田 本城 龍徳	
		笠松村	四郎丸 倉久 上有木 下有木 芹田	
昭和3.1.1 小竹町		勝野村	勝野 新多 新山崎 奈良津 御徳 赤池	手
昭和30.1.1 鞍手町	昭和27.8.1 剣村	剣村	中山 小牧 猪倉	
		古月村	上木月 下木月 古門	
		西川村	新北 新延 永谷 八尋 室木 長谷	
昭和18.2.11 若宮町	← 昭和26.4.1 ← 昭和26.4.1 ← 昭和30.3.31 明治41.12.15 吉川村	山口村	山口 沼口	郡
		中村	平 竹原 高野 稻光 宮永 黒丸	
		若宮村	福丸 金丸 水原 金生 原田	
		日吉村	下湯原	
北九州市八幡西区	← 昭和30.4.1 明治31.9.27 木屋瀬町	吉川村	脇田 小伏 犬鳴 縁山 乙野 三ヶ畑	
		木屋瀬村	笹田 野面 金剛 木屋瀬	

明治 22. 4. 1 市制・町村制施行			市制・町村制施行前の旧町村		
昭和18.11.3 田川市	大正3.1.1 伊田村 昭和8.5.1 明治40.4.1 後藤寺町 ← 昭和30.4.5	伊田村	伊田 伊加利	田	
		↑	金川村		夏吉 糺
		↑	弓削田村		弓削田 奈良 川宮
		↑	猪位金村		猪国 位登
明治31.7.21 香春町	← 昭和31.9.30 ← 昭和31.9.30	香春村	香春 下香春	川	
		←	採銅所村		採銅所 上採銅所 下採銅所
		←	勾金村		中津原 高野 鏡山 柿下
明治44.4.1 添田町	↑ 明治40.1.1 昭和17.2.11 ← 昭和30.1.1	添田村	庄 野田 添田	郡	
		↑	中元寺村		上中元寺 下中元寺
		←	彦山村		彦山 落合 楨田
大正5.7.28 金田町	←	津野村	上津野 下津野		
		神田村	金田 神崎		
昭和14.1.1 糸田町		糸田村	糸田		
昭和13.8.15 川崎町	↑ 昭和12.4.1	川崎村	川崎 田原 池尻	郡	
		↑	安真木村		真崎 安宅 荒平 木城
昭和14.11.3 赤池町		上野村	上野 赤池 市津 草場 鋤木田		
昭和31.8.1 方城町		方城村	伊方 弁城		
昭和35.1.1 大任町		大任村	大行事 今任原		
明治22.4.1 赤村		赤村	赤 内田		

司馬江漢「西遊記」

天明八年十月四日（一七八八）

こやのせといふ駅より飯塚まで七里半の路なり。この間鶴多し。雁の如く、幾むれも飛び、田の面に下りて居るなり。多くは真奈鶴。黒鶴は小振りにして頭の辺り赤し。また白鶴あり。大きき真奈鶴の如し。全体白くして嘴、足代赭色なり。雁は一向に居ず。また、絵に描く丹頂という鶴は且て無し。路々槿の木植えて、紅葉して錦の如し。

雨にて七時過ぎに飯塚といふ処、穢き家に泊る。寒ければ早速火鉢を出しけるに網五徳にして、夫れは石炭を入れ上に熾を置きたる物にて、其の熾の勢にて燃えることにて、其の熾消ゆれば石炭共に消えるなり。全く石の燃ゆるに非ず、硫黄の気の燃ゆるなり。風呂も是にて立つる故、とかくに臭し。この石炭は一边焼きて炭にしたる物なり。焼かざるものは焰立ちて木を焚く如し。ここにてよくよく聞くに、これは山の根より出づるなり。また石炭を掘るには、山の上より谷底へ負籠とて藤蔓にて造りたる物を下ろし車に引き上ぐるとぞ。皆木の石と化し、硫黄の氣を得て燃ゆるなり。



石炭を焚く圖「江漢西遊日記」

吉田松陰「西遊日記」

嘉永三年（一八五〇）

八月二十九日、晴。一豊筑ノ境ニ至レハ道右ニ一石柱アリ。是ヨリ東、豊前国小倉領ノ由刻ス。道左ニ大石柱アリ。是ヨリ西、筑前国ノ由刻ス。行一里余ニテ黒崎ニ宿ス。内裡ヨリ此迄四里半、熱氣未全解セズ、且木屋ノセ迄三里許ヲ行カハ日没セン。ヲ恐レ、七時此ニ宿ス。

八月三十日、晴。黒崎ヲ発シ木屋ノセニ至ル。此処ヨリ小竹ニ至ル迄土地卑ク且河アルヲ以テ、洪水田ヲ傷一甚シ。甚シキモノハ田稻水中ニ在。十日許ト云。小竹ニテ石炭ヲ運スル。小牛車ヲミル。土石重三百斤ヲ容ルベシト云。

飯塚ヲ経テ、内野ニ宿ス。内野ノ地タルハ山駅ニテ寂寥ノ山駅ニテ海遠ク山深シ。其故ニヤニ里許ノ所迄出テ客ヲ延ク者アリ。其供塩蝦豆腐鶏卵蒟蒻ノ類ノミ。黒崎ヨリ木屋瀬へ三里、從木屋瀬飯塚へ五里、從飯塚内野へ三里、凡ソ十一里ニテ宿ス。終日馬上、其道タル小屋瀬川ト或ハ沿ヒ、或ハ離レ、或ハ涉リ、内野ニ至テ未ダ河源ヲ極メズ。蓋河源ヨリ河口ニ至ル迄十五里ト云。此間多ク秋栗ヲ種フ。挿秧後ニ種テ、西成時ニ獲ト云。秋ノ彼岸桜多シ。花開テ枝ニ満ツ。

九月一日、曇。馬上内野宿ヲ発シ冷水嶺ヲ越ユ。嶺、上下一里半ト云。馬上宿ヲ發シ山家宿ニ至テ馬ヲ下リ歩行ス。原田宿ヲ過テ行一少許、小嶺アリ。三国嶺ト云。二筑・肥前ト相属スルノ地ト云。此ヨリ田代・瓜生野迄凡一萬石对州領也。

筑豊に関する10の質問への解答例

1. 長崎街道「筑前六宿」の6つの宿場町を挙げて下さい。

答. 黒崎 木屋瀬 飯塚 内野 山家 原田

2. 遠賀川の流長は

1. 100 km ②. 60 km(61 km, 流域面積 1,026 km²) 3. 40 km

3. 標高の高い順に番号を入れて下さい。

① 英彦山(1199.6m) ④ 福智山(900.6m) ③ 三郡山(936m) ② 馬見山(978m)

4. 「筑豊の石炭御三家」は貝島太助、麻生太吉ともう一人は

答. 安川敬一郎

5. 筑豊で最後に閉山した炭鉱は

答. 貝島大之浦炭鉱 (昭和51年閉山)

6. 筑豊で初めて鉄道が開通したのは

①. 明治24年 (筑豊興業鉄道 若松-直方間開業) 2. 明治26年 3. 明治30年

7. 筑豊で最初に開設された銀行は

答. 嘉穂銀行 (明治29年 初代頭取 麻生太吉)

8. 筑豊で最初に市制を施行したのは

①. 直方市 (昭和6年) 2. 飯塚市 (昭和7年) 3. 田川市 (昭和18年)

9. 筑豊で初の夏の甲子園大会に出場した高校は

答. 飯塚商業 (昭和43年、44年)

10. 現在の筑豊の人口はおよそ(平成22年国勢調査速報値では436,030人と40万人)

1. 60万人 ②. 50万人 3. 40万人

福岡県 5,072,804人, 福岡地域 49.2%, 北九州地域 25.8%, 筑後地域 16.4%, 筑豊地域 8.6%
平成17年国勢調査: 450,141人 嘉飯桂 193,821人 田川市郡 140,736人 直鞍 115,584人